

還奪國學！粉砕体制アウトロック

明大共闘会誌

左し徹底的な復業再編阻止！
学館を解放せよ！

政経・法・経営学部の解放

守保決戦(10月1日守保決戦)とは一体何んだ？たのか？それには佐藤がアメリカへ行くことにかつて守保条約が日本の守至を

守るといふイメージから70年代の日米の強大強化・前全資本の粉砕に向けて自衛隊を強化して政

府自民党は70年代自衛隊の増強を本土並み返還と名義に沖繩を管領として積極的を容認して

了。全地域の統治をなすに以て路を開始しようとする守保条約の質的転換点(守保守保)↓

攻守守保)として11日守保決戦があった。

そうであるがゆえにこの映像と暗黒との歴史的過程の中で新左翼総体においても明大共闘会に

おいても闘争の質的変化を特に軍事面において今後をくまなく

こらめて蓄積していかねれば空力量も投入して守保防衛が

たかかわれた。このゲイナミンクワリ(即ち)守保を克服する

自民党の政治的戦略と、かくかりえに政治的なたまごころ・事前検挙・復讐活動などという形で

明大共闘会誌のストライク

治守政策を推したオカミツ上う先行的また全面的に復業を止

かつてきた。明大大学においても大専当局は

ストライキに入る前から、大専法には反対であると言明した。た

かかわらずにどう譲歩がつかのか権力の攻撃を呼応して、

学生が自治とか話し合いのルートルと校の無視してありた。た

グロブラスクを格好とした。グダのような行動隊を使って国家権力

の権威強化に置いてしまった。その上その正統化策動に対する

責任をうやうやに復業をたし前似的に再開していつている。

学友諸君、そのようなアウトロックアウト体制化におかれた学回、また

有志連合、体育会の暴力リンチがはびこる学回の中で一体何を志向し、何をなすべきならばなら

いのだろうか？ 答は簡単である。アウトロックアウト体制を粉砕し、

権力によって奪われた学回をわれわれの手で取り返すことである。その開始は学回に春が吹くとすれまう。

12月 明大共闘会誌の政治集賢(学館)

12月 明大共闘会誌の政治集賢(学館)